



中村俊定文庫
文庫 18
717



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately seven lines of cursive script.

松濤舎

遺民

原山

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, consisting of several lines of cursive script.

橋山梅橋菴社某



Handwritten text in Japanese cursive (sōsho) style, consisting of several vertical columns of text.

あそむわ、又訃山の遺吟うし師とあり
言廣りのあつくわつた行中守と都に
のちうりりよきく見まゝとて西村とろ
空のもた瑞雲——とみち——たきしあまらの
やがゆへ行しきくありけい山鳥のまひぬ
かろくしきまゝ風談とこまやあつ——
ましりてあつしやうて軒のたき水とくもあ

こまのまう松山まゝにありまゝしとちきり
あまゝさきもあつりありまゝにあら行ひ
たしらだおひあつしとあつしとあつし
鷹のぬきと雪うらら打むつ流るり新し
あつらうはう日枝あり——にゆれあえて塩
ぬくまをかきりよお病ありとてあつし
薬よきとまゝれりやう鐘つはちりてあつ

暁のそよ風を引くきりぎりすのこゝろに
よりほろほろとささるるやまきりぎりす
まはたけのさかきとてまはたけのこゝろに
こゝろあはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれもあはれも
上毛の國よりきりぎりすのこゝろに
胸のこゝろ目なれはあはれも

えよちの涙や膝の玉あはれ 露葉

あちこちの春にささるるやまきりぎりす
引くきりぎりすのこゝろに
わがささるる春にささるるやまきりぎりす
あちこちの春にささるるやまきりぎりす



あちこちの春にささるるやまきりぎりす

白雪や逢ふたぐく 雪乃原 上毛 亀童

たつふらぬ 乃かまきり 折しきり 乃

いんういさ 群ふのり

夢うらみ 今いぬ されあはれ 正波



都山 といま ぼくは 霜の甘あま

もも文を ちかちかきき 余程見と

ちりまきり くれお

百里妻 文や氷き 墨乃色 諸山

あつむれ 命り 室の梅 鬼毫

あまの ぬり 折やも 雪れ竹 不可得

ちの 音の かり した 様乃 落葉哉 柳揺

日何りに 響き け 松の電 白質

早きり 國御も 氷乃 平向る 且格

冬枯や 松り ゆるり 葉州 訃風

塚きき あれその ちよ ぶん 朔宇

埋火の向う淋き存さぬより
 ぢりけれ軒窓をさる落葉哉
 寒菊やありけり凋むき此の霜
 埋火の消ききひく相火桶
 そのわれ腸よきまかれまれ
 ちやのや名をく一本雪り折
 そくく佛の梁一のくく
 雪の上たわひく雨の降あうか

茯苓
 河翠
 柯則
 桃李
 仙丈
 家副
 其水
 思可

信濃

あー野の夢のうね世枯にまり
 はくくやるや淋きその海
 ぢりけれや露の柳農圃毎り
 消く後新あり霜の至新
 ちりき一本榊や雪明日
 木がたたけけけけのむ木哉
 霜よくく雪にかくくも夢ときか
 老のありれ寒菊も涙のほきき

茯苓
 河翠
 柯則
 桃李
 仙丈
 家副
 其水
 思可

女はうろく去り行きり電乃船

俗

不才

暁来之合

棠の花は近道しよおきれり

上毛

夏鷗

雁まきとみきりまれまの春

麥雨

鶯に白く念佛ナキ

紅枝

霞のや筑波のささり

東水

雨の梅の影のぬり散り

麦茂

七曲りたし藤の花

蓬之

行雁のまきり雲

亀昌

陽炎に鴨鳴きり法衆海

丹山

鶯も柳のやに啼

舞泉

けさや鳥を去西の空

少年

梅成

雪のこゝ小松の中や石佛

桑布

蝉のやあしは採り青胡椒

東都

雅輔

ちりしつり心鴨のま

其堂

ちりしつり初る

葛三

加川散々黄ち紅泉の紅葉り那 雲萬

萩の妹さきもろくもあにきり 故園

信濃

凡の鷗鳴りし叫しきのれり 苜二

鷹啼や刈きし夢の野アかほし 水貫

白菊の露に白ひく枯にきり 真菅

骨まきもぬく雪ふり雨ふし 梅人

まゆりしきのゆりや秋の雨 畔古

むけや梅の木陰れ霜白き 嘉山

まは人の笛れ尊や 霜の月 東都 嘉節

柱とまゆむり 枯し力草 一水

まき名れ消く甲斐はし 霜柱 已曉

消る行 霧よ平向の雲り 三亀

夢の世れきりしまきり 枯野原 歌友

身の上んおほく寒れ霜 長哉 秀祇

嗚呼きりし古れ花津鐘の詳 斗園

平河つら 及魂香の平向か 桔園

日往月去の如くしてさうさう霜月のまじ
ころ太光精舎に法道よりく霊牌が
まろく杵臼の人々ときねきつて活け立弁
詞堂の諸事より寄進善の世譜よりけり
出魂をるくさう侍る

義虫の今も多きう 塚の霜 露葉

朝の鷹のうけ 素砂 瓦全

あし鳥きつてさうに焚捨る 蘭之

むらさけの柙よりさうさう 春坡

研ふれ月を腕のくまもあし 春曉

陸奥賜ふ喜かてまれ 隆洲

青丹よりさう候さうむし道 楓月

まれぬ風の色くさむら 棠

夕の月よ喜う命の村さうし 全

南なるけしーかきさの 名

のさくし 霍 眩 々 々 氷 小 々 々

鹿 鳴 ま っ っ っ 々 々 々 々 行

白 ぬ の 月 風 団 々 々 々 々 一

ち 々 々 落 久 保 地 々 々 々 露

火 の ぎ り 々 廣 き 板 間 の 々 北 寒 々

空 に 毛 々 々 番 通 々 々 樵

之 坡 曉 洲 月 巢 全

ち 々 々 花 々 々 々 々 々 々 送 々

か げ 一 尊 々 々 々 々 々 々 々

さ っ っ 々 廉 々 々 々 々 々 々 々 々

紀 の 関 守 々 々 々 々 々 々 々

さ っ 々 蟬 の 通 き 々 々 々 々 々 々 々

観 音 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

外 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

之 坡 曉 洲 月 巢 全

阿比司太夫人山崎くおん

咲の向く花の萎れまゝ祈り

醜を乞ふや隣アと記

月の雲やあきうら智く

野宮の別荘去りてうら

はるまじに平然と曾良、旅おれ

松を常盤の庭れり電

之

坡

曉

洲

月

棠

全

今きわ行かぬまにむかひ

道へ習ふて移せたるは嘈

こまけりかひ阿舎村のきれいさ記

流きし池へ星うら一歌

駒の所ちやもろくれ花農夢

董ちりり友をりり一

之

洲

曉

月

全

坡

一坐捨香

まれ名おしりきたきゆ月 菊之
 度と細くおしり寒し松の祥 鷺洲
 月よ見たまされぬ霜の産色哉 春坡
 光陰のうらうら塚の苔寒し 楓月
 おしりをたよ清し霜の月 麦曉
 まりし雲をわけてその梅 瓦全
 おしりをたよ水

別まに—去年のこよみは霜夜哉 亀童
 福壽草の如きけや石あり花 正波
 此語をうかしたよみよきし—
 水差入圖の鴉けりよみよきし—
 友子身方廣法師もけりよきし—
 霜し消ゆの—よきし

霜の花月の電の法入道 詔山
 夕の暮る月々に袖染氷の南 白質
 こより聖の寒梅の白の記念戒 觚圓
 白雪や雪を去る年がながれと 桃李
 鮫汁のまろくくく一めくく 信中 卯毛
 しの波のくくくくくくくくく 簡口
 霜の花をまきり 駒よ小祥忌 宇呂

一より舍利拾の寺のまれくく 周布
 夕のれ日れ次中にくくくく 電車 東都 三巴
 平向州のくくく 洞の氷きく 行脚 舟山

龍山遺吟

長閑の空がけくく 松のちる白く
 楡の生まかきくく 雲の霞
 雲風や靴くく 店れ舞車

入柳り 京のまきり 花の比
朱雀野や 喜まされ 女まめあり
清い 野子山鳥の 尾の 初めり

喜まされにこの山よりの

おろし 花 孫生 三十日 吉野山
冷ましく 藤を 咲く 庭 歩行

東都にて

朝まき 筑波を 平乃 朝一 哉

頃々に早うて

海 春て 月を 早うて 頃々に 喜
鶯や 喜まされ 毛を 詠 宿の 海
竹の子や 今一 年 花を 咲かされ
五月 雨や 花を 咲く 雨の 風乃 蔓
子規 十分 早うて 朝 農 酒
うき草の 中 湖 水の 田 垣 多
ま 咲く 竹を 咲か 竹を 島

きしあや月くさくさ 古紅葉
夏月新造くさく水の流きり
萩原や目にふく小松二三本
床啼や山くさる井に暮らるり
月ぞり 新し月を 玉より我
旁 渾身 長く 做し 厚れ 群
待宵やあつらふ花を 嵐あや
きしあや

更科やがさる山つ月を死

若光寺より

十六夜や貪女く 灯圍もさし
あきやわらわらに 咲寺の庭
踏まきまき 野菊のあつら
いさつまた 怖く ^{オナ}おそろ 女く 那
晴のあれ 里あつら くらきあつら

都より

初雪也 豆腐も花の東山
流るるもれ 柳や落氷
枯野り人や入日一長刀
知ちるも少くも出さるるも
手取んとてやうくもぬる
赤く發れよのくも今も小喜哉
鮫汁や妻のまもるも貴加減
白妙の雪や淡同れ雲きり

きりよ 鉛吹くや 寒念佛
まもるもれ 柳花さく江のまもる



書よりまもれ一 読むるの吟風平向の
書みよ一 柳花さく江のまもる

鳴桂ねよの 鐘の雪入 祐昌
かろふもれ 柳花さく江のまもる 此得
蓬萊の峰に 入るもやまもれ月 五素

子規のこゝろを病むはれり
子規おのれを控へて月夜に
咲初めあけり月あけ花
冬木まきり神にたすけ
田居鳥さけし雲より御き次
くく馬五月こゝろ五日
翔ふは五月人の日けり妻の電
子河や鶴鶴の尾をかきわ

羅城
士朗
張道
重厚
古祥
升六
此柱
吾萍

男平にむくく河豚の煮焚成
白魚れをく曲りくのりちり
夕菜つむや妻の浮世もなほいと
火くそ産園くかけり花の雲
空や海の二夕藍けく百千鳥
月あけく月に又く心く那
教一葉翔る月よ世なく魚子の
月影くく月あけ子の餅めくか

可留
成美
木朵
孝山
蒲尺
古音
桃二
斗外

山伏の荷切なまのり小書くま	旭子
風流の骨くまけき干くま	魚階
鷹の群やこれの世なまのり	玉屑
茅に鷹のさきまのり	月居
表ちの白いよく氷をくま	幸郷
初秋や望け科の暑き色	魯白
麻啼やうくまの雪を皆白し	柳莊
乙身や大名流を江戸生れ	大江丸

吹くも 杜風入ぬ 縄暖 簾	氣牙
平きくまやたごまのいれ坊前	右沙
やまのくま身なまのり	出雨
行りや小家なまのり	素蘭
羽顔の露やのり	文里
父母れこまのり	露香
世は芥子の花にまのり	枕流
平きくまの肥くまのり	兩銘

凡吹ぬ 春草や水鶴の水たつく
 梅ぬきく 朝の雨を けりきり
 花をんと ありき 花のちる白哉
 行まよ 去るよき 浮智扇
 十六夜 夕顔棚の 踏う花
 火のそく 草花の 陰や 寒念佛
 しのぎの 色吹雪や 秋の風
 木がし 海も 果も 花も けり
 正葩 梅發 雅石 依号 猶綯 馬素 希言 髭風

格式の ちりきり けりきり 内
 う 枯や 河内 通い 農道 古き
 菊合も 養ひ 幸われ 品なり
 曆を 京人 主きり 初さく
 其花より 雨を けり 捨固
 夜を 月入 くれけ 痛く 過
 掃て くれ くれ くれ 菴の 煤
 梅雨 薩道 如洋 一古 槐主 去何 五明

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله

一 佛の功を
 二 白死鬼、あはれ
 三 ちかちか
 四 ちかちか
 五 ちかちか
 六 ちかちか
 七 ちかちか
 八 ちかちか
 九 ちかちか
 十 ちかちか
 十一 ちかちか
 十二 ちかちか
 十三 ちかちか
 十四 ちかちか
 十五 ちかちか
 十六 ちかちか
 十七 ちかちか
 十八 ちかちか
 十九 ちかちか
 二十 ちかちか
 二十一 ちかちか
 二十二 ちかちか
 二十三 ちかちか
 二十四 ちかちか
 二十五 ちかちか
 二十六 ちかちか
 二十七 ちかちか
 二十八 ちかちか
 二十九 ちかちか
 三十 ちかちか
 三十一 ちかちか
 三十二 ちかちか
 三十三 ちかちか
 三十四 ちかちか
 三十五 ちかちか
 三十六 ちかちか
 三十七 ちかちか
 三十八 ちかちか
 三十九 ちかちか
 四十 ちかちか
 四十一 ちかちか
 四十二 ちかちか
 四十三 ちかちか
 四十四 ちかちか
 四十五 ちかちか
 四十六 ちかちか
 四十七 ちかちか
 四十八 ちかちか
 四十九 ちかちか
 五十 ちかちか
 五十一 ちかちか
 五十二 ちかちか
 五十三 ちかちか
 五十四 ちかちか
 五十五 ちかちか
 五十六 ちかちか
 五十七 ちかちか
 五十八 ちかちか
 五十九 ちかちか
 六十 ちかちか
 六十一 ちかちか
 六十二 ちかちか
 六十三 ちかちか
 六十四 ちかちか
 六十五 ちかちか
 六十六 ちかちか
 六十七 ちかちか
 六十八 ちかちか
 六十九 ちかちか
 七十 ちかちか
 七十一 ちかちか
 七十二 ちかちか
 七十三 ちかちか
 七十四 ちかちか
 七十五 ちかちか
 七十六 ちかちか
 七十七 ちかちか
 七十八 ちかちか
 七十九 ちかちか
 八十 ちかちか
 八十一 ちかちか
 八十二 ちかちか
 八十三 ちかちか
 八十四 ちかちか
 八十五 ちかちか
 八十六 ちかちか
 八十七 ちかちか
 八十八 ちかちか
 八十九 ちかちか
 九十 ちかちか
 九十一 ちかちか
 九十二 ちかちか
 九十三 ちかちか
 九十四 ちかちか
 九十五 ちかちか
 九十六 ちかちか
 九十七 ちかちか
 九十八 ちかちか
 九十九 ちかちか
 百 ちかちか
 百一 ちかちか
 百二 ちかちか
 百三 ちかちか
 百四 ちかちか
 百五 ちかちか
 百六 ちかちか
 百七 ちかちか
 百八 ちかちか
 百九 ちかちか
 百十 ちかちか
 百十一 ちかちか
 百十二 ちかちか
 百十三 ちかちか
 百十四 ちかちか
 百十五 ちかちか
 百十六 ちかちか
 百十七 ちかちか
 百十八 ちかちか
 百十九 ちかちか
 百二十 ちかちか
 百二十一 ちかちか
 百二十二 ちかちか
 百二十三 ちかちか
 百二十四 ちかちか
 百二十五 ちかちか
 百二十六 ちかちか
 百二十七 ちかちか
 百二十八 ちかちか
 百二十九 ちかちか
 百三十 ちかちか
 百三十一 ちかちか
 百三十二 ちかちか
 百三十三 ちかちか
 百三十四 ちかちか
 百三十五 ちかちか
 百三十六 ちかちか
 百三十七 ちかちか
 百三十八 ちかちか
 百三十九 ちかちか
 百四十 ちかちか
 百四十一 ちかちか
 百四十二 ちかちか
 百四十三 ちかちか
 百四十四 ちかちか
 百四十五 ちかちか
 百四十六 ちかちか
 百四十七 ちかちか
 百四十八 ちかちか
 百四十九 ちかちか
 百五十 ちかちか
 百五十一 ちかちか
 百五十二 ちかちか
 百五十三 ちかちか
 百五十四 ちかちか
 百五十五 ちかちか
 百五十六 ちかちか
 百五十七 ちかちか
 百五十八 ちかちか
 百五十九 ちかちか
 百六十 ちかちか
 百六十一 ちかちか
 百六十二 ちかちか
 百六十三 ちかちか
 百六十四 ちかちか
 百六十五 ちかちか
 百六十六 ちかちか
 百六十七 ちかちか
 百六十八 ちかちか
 百六十九 ちかちか
 百七十 ちかちか
 百七十一 ちかちか
 百七十二 ちかちか
 百七十三 ちかちか
 百七十四 ちかちか
 百七十五 ちかちか
 百七十六 ちかちか
 百七十七 ちかちか
 百七十八 ちかちか
 百七十九 ちかちか
 百八十 ちかちか
 百八十一 ちかちか
 百八十二 ちかちか
 百八十三 ちかちか
 百八十四 ちかちか
 百八十五 ちかちか
 百八十六 ちかちか
 百八十七 ちかちか
 百八十八 ちかちか
 百八十九 ちかちか
 百九十 ちかちか
 百九十一 ちかちか
 百九十二 ちかちか
 百九十三 ちかちか
 百九十四 ちかちか
 百九十五 ちかちか
 百九十六 ちかちか
 百九十七 ちかちか
 百九十八 ちかちか
 百九十九 ちかちか
 百十 ちかちか

寛政十二申栗月

みどり

蕉門書林
 皇都寺町通二條
 橘屋治兵衛梓

